

◇ シリーズ

T・Tによる 小学校算数の授業の在り方

教育センター学習指導部

1 はじめに

多くの小学校では、学級担任が一人ではほとんどの教科の授業を担当している。

その教室に、「もう一人」の先生が加わることで、「授業」はどう変わるのであろうか。また、「授業」をどう変えていったらよいのだろうか。児童一人一人の個性への対応を目指したT・T方式について、事例をもとに述べる。

2 T・Tによる授業の改善の視点

(1) 考えの過程を深く見取る

I男(6年生)は、分数のひき算の問題(5年生で学習)を、次のように解いていた。

$$5\frac{5}{7} - 1\frac{1}{3} = 5\frac{7}{21} - 1\frac{15}{21}$$

$$= 4\frac{8}{21}$$

I男の計算は、答えは正しいものの、求答過程に大きな誤りがある。I男はどのような考えで、このような計算をしたのだろうか。表記された計算過程の裏にあるI男の考えを明らかにしていく必要性を強く感じる。



T・T方式の導入のねらいは、多様な個性に対応することにあるが、前提として「一人一人」に目を向け、それぞれの学びの過程をより広くより深く見取ることにある。

(2) 自力解決時における個別支援の工夫

5年生の「体積」の学習において、空間的なイメージがつかみにくいY子に対する重点的な個別支援の例を下図にまとめてみた。

「複雑な形の体積の求め方」
問題「体積を求めよう」

T 2 支援 1 T 2 支援 2

勉強した直方体に、できないかな。
この立体(具体物)で、ここを切ると、どうだろう。

「Y子の変容」

わからないなあ。 → どうすれば直方体になるのかな。 → 2つの直方体が見えてきた。たてに切ってもできるぞ。

T 1 支援

T 2 からの KR 情報 よく見つけられたね。2つの考えが見つかったね。